

県土強靱化・インフラ整備対策特別委員会記録

<p>1 会議の日時</p>	<p>令和 5年12月20日</p> <p>開 会 午前 9 時 5 8 分</p> <p>閉 会 午前 10 時 5 2 分</p>	
<p>2 会議の場所</p>	<p>第6委員会室</p>	
<p>3 出席者</p>	<p>委 員</p>	<p>委員長 猫 田 孝 副委員長 小 原 尚</p> <p>委員 森 正 弘 野 村 美 穂 澄 川 寿 之</p> <p>森 治 久 藤 本 恵 司 平 野 恭 子</p> <p>森 益 基 黒 田 芳 弘</p>
<p></p>	<p>執 行 部</p>	<p>別紙配席図のとおり</p>
<p>4 事務局職員</p>	<p>主査 横田 直道 係長 佐藤 由子</p>	

5 会議に付した案件

件

名

審 査 の 結 果

1 県土強靱化・インフラ整備対策に関する調査について

○生活を支えるインフラの整備について

参考人

名古屋大学 減災連携研究センター

准教授 平山 修久 氏

2 その他

6 議事録(要点筆記)

○猫田孝委員長

ただいまから、県土強靱化・インフラ整備対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、生活を支えるインフラの整備についてを議題とし、協議いただくため開催したものである。

本日は、執行部のほか、議題について報告いただくため、名古屋大学減災連携研究センター、准教授の平山修久様に出席いただいている。

平山様におかれては、大変ご多用のところ、お越しいただき、誠に感謝する。

是非、活発な意見交換ができればと思うので、よろしくお願ひしたい。

なお、質疑については、報告終了後にお願ひする。

(報告 参考人 名古屋大学 減災連携研究センター 准教授 平山修久氏)

○猫田孝委員長

ただいまの報告に対し質疑はあるか。

○野村美穂委員

徹底的な点検を行うために、県営水道のバックアップ化(二重化)を完了するには、どのくらいの時間を要するものか。

○平山参考人

地盤の調査やルート選定、場合によっては水利権の調整等が必要となるため、地域ごとに変わってくるが、1、2年で完了できるようなものではない。

○猫田孝委員長

明治用水頭首工で河床が洗掘されて漏水が発生した事案を説明いただいたが、各務原市の川島大橋でも、橋脚の下が洗掘されて橋が損傷する事案が生じた。洗掘の原因はどのようなものか。

○平山参考人

洗掘という現象は、一般的に川の水の流れが常時と変わったことにより発生するものと考えてるが、どのような原因で常時と変わったかは河川工学の範疇となり、分かりかねる。

○澄川寿之委員

東海圏での基幹管路の耐震化状況を説明していただいたが、「耐震化率」と「耐震適合率」という用語は、どのような違いがあるのか。

○平山参考人

「耐震化率」は、管のつなぎ目に耐震性のある部品を用いるなど、一般的な耐震化が完了しているかどうかを示す指標。「耐震適合率」は、管自体が耐震化している場合に加え、管が強固な地盤の中に敷設されている場合も耐震化されているとみなす指標。

○澄川寿之委員

名古屋市の耐震適合率が非常に高いのは、名古屋市の地盤が強固であるということか。

○平山参考人

市東部は台地の上に位置し、地盤が強固である。

○小原尚副委員長

南海トラフ地震などに備えて備蓄が必要だと思うが、水の備蓄はどのくらい必要か。

○平山参考人

一人あたり、一日10リットル備えるとよい。一般的には3リットルと言われているが、それは生命維持に必要な分量で、トイレ等雑用水を見込んでいない。なお、個人の備えが最も大切なのは間違いないが、これに加え公助として緊急貯水槽を整備するなど、自助と共助・公助を組み合わせる考え方が重要である。

○藤本恵司委員

災害が起こる前の事前の共助の話があったが、日頃からの地域のつながりが大切であると理解してよいか。江戸時代や戦前と比較し、災害に対応する「文化」が縮小しているという指摘があったが、これを今後大きくしていくためにはどうすればよいか。

○平山参考人

小学校などでの防災教育を継続していくこと、また、訓練などを通じて日頃から防災を意識する機会を持つことが重要である。防災に対して、「暗いこと」と捉えるのではなく、明るく前向きに取り組むことが大切である。

○猫田孝委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

